

組合ウィークリー

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2
 横浜市立大学教員組合
 kumiai@yokohama-cu.ac.jp
<http://homepage3.nifty.com/ycukumiai/>

恣意的で不公正な大学運営が常態化する危険

8月早々に文科省に学部改組届出等を行う予定で、カリキュラム貼り付け等てんやわんやの作業がすすめられていることはご承知のとおりです。ともかく法人への移行と新学部発足のために、無茶なやり方であれ何であれ強行する現在の大学運営は異常と言うほかありません。

たとえば後任教員についてすすめられている選考。改革推進本部におかれ、横浜市が指名した教員、職員、学外者からなる教員選考委員会が人事をすすめている現実、教授会と大学組織が手続きを踏んですすめる人事選考とはちがひ、大学のすすめる人事とは言い難いものです。もしも法人化を前提とするというのであれば、「学長の下におかれる」はずの人事委員会が、それなりの手続き、原則を踏まえて選考をすすめることになるはずで、そうだとすれば、この届出にさいしてスタッフとして位置づけられる教員の選考手続きが現行大学組織とまったく無縁にすすめられている現状は、手続き上からしても重大な瑕疵があると言わなければなりません。

現在すすめられているさまざまな改組作業は、教員組合が以前から指摘してきたように、現行大学組織が公的にはいっさい与り知らぬところで進行していることになっています。市と大学が協力して改組をすすめているように言いつくろつても、改組準備をすすめるすべてのプロジェクトに教員が個人の資格で参加しているのだ、というフィクションが強弁され続けていることからみても、現行大学組織・機関は改組作業とは切り離され、無関係とされています。それでいながら文科省にたいしては現行大学が改組を申請するとみせかけるのは詐欺的行為に等しいものです。

さらに問題なのは、このような改組準備作業が、法人化以後の大学運営にそのまま持ちこまれかねない、ということです。現行の教員選考組織が「学長の下」にあるとされる人事委員会に衣替えされる可能性はもちろん、大学の構成員に支えられているわ

けでなく、適正かつ公正な手続きをへてオーソライズされているわけでもない「方針」が組織の方針として指令され、教員がその具体化に動員されるような運営が、そのまま法人運営に持ちこまれるのは確実です。

雇用条件をめぐる問題は、それでも、労働諸法規の制約下におかれ、当局の思いどおりにできるわけではありません。しかし、行政管理を定款のうえでも都立大以上に徹底させた市大の大学運営は、このままでは、大学と言うに値しない異様なすがたに定着させられることになります。当局の謳う「透明性、公正性、客観性」を、教員人事や大学運営のあり方に徹底させるための運動が急務です。大学の管理運営、教員評価に携わる教職員にたいして、個々人の責任を明確にした説明責任を果たさせなければなりません。

新役員決定

2004年7月15日、役員一部任期満了に付き改選が行われました。その結果、下記のとおり新役員が決定いたしました。以前にも増してご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

執行委員長	国際文化	中西新太郎
副執行委員長	商学部	藤山嘉夫
書記長	国際文化	山根徹也
書記次長	国際文化	渡辺芳敬
市労連執行委員	理学部	木下郁雄
市労連中央委員	医学部	相原弼徳
会計委員	理学部	伊師英之
情宣委員	国際文化	川浦康至
福利厚生委員	理学部	橋 勝
給与調査委員	看護短大	野村明美
調査委員会担当	商学部	片山亜紀
公大協委員	国際文化	中西新太郎
会計監査委員	商学部	三浦 敬
執行委員補佐	医学部	小城原 新